



さようなら原発 第12回 オンライン学習会 鹿島建設らの耐震偽装を告発する —福島第一原発1号機、倒壊の危険性—

日時: **12月21日(水)18:00~19:30**

お 話: **森重晴雄**さん (福島事故対策検討会)

◇2004年まで在籍していた三菱重工で、福島第一原発1号機のペDESTAL(圧力容器の土台)をモデルにした共同研究など原発の耐震構造の研究などに従事。現場責任者として四国電力伊方3号機の建設にも携わり、その後伊方1・2号機で世界で初の致死線量を持つ原子炉内の炉心を交換した。2014年に福島事故対策検討会を設立し、自主的に福島事故の原因や廃炉について研究してきた。鹿島建設、日立、東芝などが行った事故後1号機の耐震評価及び耐震実験が偽装と判断され現在、経産省に審査請求を求めている。



【これまでのオンライン学習会】

▼第8回を除き、いつでもご覧になれます▼

- ▶ 第1回 2021年9月23日
テーマ:新エネルギー基本計画案を斬る
- ▶ 第2回 2021年12月3日
テーマ:気候危機と脱原発
- ▶ 第3回 2022年1月17日
テーマ:六ヶ所再処理工場の現状と裁判
- ▶ 第4回 2022年2月17日
テーマ:今の福島を知る①=復興事業の現実
-福島イノベーション・コスト構想とは何なのか-
- ▶ 第5回 2022年3月15日
テーマ:今の福島を知る②
-放射線量測定と医療現場から見えるもの-
- ▶ 第6回 2022年6月7日
テーマ:今の福島を知る③
-立ち上がった福島の小児甲状腺がん患者たち-

△さようなら原発のトップページが開くQRコードです。
△開催日が近づきましたら、トップ記事でオンライン学習会の視聴方法の詳細を案内します。YouTubeで配信予定。

- ▶ 第7回 2022年4月27日
テーマ:今の福島を知る④ 避難者の居住権を守れ
-原発事故避難者住まいの権利裁判で求めること-
 - ▶ 第9回 2022年8月29日
テーマ:いま、日本の電気に何が起きているか
-電気価格高騰のカラクリ-
 - ▶ 第10回 2022年10月5日
テーマ:GX実行会議の原発活用押し付けを憂慮する
-政府は、国民的議論から逃げるな-
 - ▶ 第11回 2022年11月28日
テーマ:原発マネーに頼らない地域づくり
-北海道から考える原発・核のごみ-
- お 話:小田清さん(北海学園大学名誉教授 地域政策政策論)

主 催 「さようなら原発」一千万署名 市民の会

大江健三郎 落合恵子 鎌田慧 坂本龍一 澤地久枝 武藤類子

連絡先 さようなら原発1000万人アクション事務局

東京都千代田区神田駿河台3-2-11 連合会館1階 原水禁気付

TEL.03-5289-8224 Email sayonara2nukes@gmail.com

http://sayonara-nukes.org ←ホームページは「さようなら原発」で検索。





2022/05/19
21:19:37

本来はコンクリートで覆われているが、鉄筋がむき出しになった原子炉の土台。鉄筋の上に燃料デブリの可能性のある堆積物がある＝国際廃炉研究開発機構、日立GEニュークリア・エナジー提供

迫る 探る

@福島

福島第一原発 1号機の状況

- 原子炉格納容器
- 原子炉圧力容器
- 燃料デブリ
- 圧力容器の土台
(ペDESTAL)



5月の調査後に公表されたこの写真からは、ペDESTアル内部に設置した円筒形の「インナースカート」を覆うコンクリートが溶けて鉄骨と壁内部の鉄筋がむき

つ。専門家からは、耐震性の観点から早急な対応を求めらる声も上がる。「耐震上、重要な欠陥がある。緊急対策を考える必要がある」。1号機の原子炉内部の写真からこう指摘するのは、福島第一原発事故の研究を手がける森重晴雄さんだ。三菱重工で原発の耐震構造を研究し、現場責任者として四国電力伊方原発3号機の建設などに携わった経歴をもつ。

側の鉄筋まわりのコンクリートは全て溶け落ち、外側の鉄筋まわりも、開口部から流れ出た燃料デブリによって約4分の1周分が溶けていると見る。これによ

り、ペDESTアルの支持機能は本来の8分の3くらいまで低下していると試算し、「この状態では震度6強の地震に耐えられず、原子炉が倒れる可能性がある」と話す。何度も地震に襲われれば、残るコンクリートにも亀裂が入るなどし、耐震性が一層下がる可能性もあるという。また、コンクリートが溶けたことで壁と床とのつながりが失われ、地震時に揺れやすくなっているという。

必要だと提言する。「転倒の可能性があること自体があつてはならないこと。対策と調査を、同時並行で進めるべきだ」と警鐘を鳴らしている。

森重さんはペDESTアルにコンクリートを注入して補強するなど、早急な対策が必要だと提言する。「転倒の可能性があること自体があつてはならないこと。対策と調査を、同時並行で進めるべきだ」と警鐘を鳴らしている。

「震度6強で転倒の恐れ」 専門家 早急な対応求める声